# 秋空のもとに村民運動会

## 村・体協表彰も行う

去る十月十日体育の日、横小グランドに於て第八回村民大運動会が開催されました。

統合された小学校のグランドを会場にするのは今回が初めてであり、各部落から多くの選手が集まりました。

幼児から高令者まで多彩なプログラムが組まれ、笑いと熱気で会場はわきあがりました。また昼食休みの時間に本年度村体育界に貢献のあった団体、及び個人に記念楯及びメダルがおくられ一層会場を盛りあげました。

尚、成績は次のとおりです。

一位　横越分館　六六〇点
二位　沢海分館　五八〇点
三位　小杉分館　五四〇点
四位　木津分館　四二〇点

尚、表彰された方はつぎのとおりです。

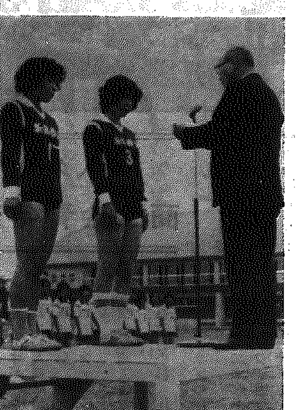
○村表彰の優秀競技者
中学女子バスケットチーム
連青女子バレーチーム

○村体協表彰の優秀競技者
佐藤　正夫　田村　茂栄
佐藤　左右　桜井　久勝

○村体協表彰優秀指導者
増渕　一平

○村表彰の健康優良児
健康優良児新潟県一　栗原　利佳

次代の横越をになう子供も元気に走る


村長から表彰される連青女子バレー

# 第二十六回 全国大会新潟で開かる

## 新しいふるさとづくりのあり方をめざして

本村から七名参加

第二十六回全国公民館大会が、去る十月十二日、十三日県民会館を主会場に開催されました。

第一日目は開会式のあと、公民館優良職員の表彰がありました。本県からは、豊栄市の丸山昇さんが表彰されました。次に、新潟市長が、全国から集った約千五百名の人達に歓迎の言葉をのべられました。

午後からは、十二の分科会に別れて、とても熱心な研究討議がなされました。

二日目は全体会の報告とそれに対する質疑意見がだされその後、記念講演に入り、前東大総長の林健太郎氏が、「世界の中の日本文化」という演題で一時間半講演されました。その中で特に印象に残ったものは、日本と西洋の共通なものに「城」があります。城には殿様と家来がいた、アメリカに城はないそうです。

二日間の大会でしたが、分科会では活発な意見がだされ、みのりある大会でした。今回の大会の趣旨にもあるように、経済事情の変動から、人口の過疎、過密化とすさまじい社会構造の変容を持たらしたこの地域共同社会の崩壊を、住民と地方自治体は、新しいふるさとのあり方をさがしつゝ、今後は地域共同社会づくりに、公民館職員はより一層心せねば、と問題提起の多い大会でした。

# 公民館結婚を見なおそう!!

## 諸経費の節約にぜひご協力下さい

近年、公民館で結婚式を挙げる人が多くなっているようですが、いろ〳〵な面で経費も多くなっているように見受けられます。そこで、来年から次のことについてより一層のご協力下さいますようお願いいたします。

**①料理について**
きめられた三、五〇〇円を堅く守って下さい。

**②式菓ともりかごについて**
式菓ともりかごが当然のようについておりますが、一月からは、どちらか一つにして下さい。二つはこまります。

**③お色なおしについて**
二回もお色なおしをやる人が見受けられますが、一回にして下さい。どうしても二回やりたい方は二回目は新婚旅行へ行く時の服装（平服）にしてほしいと思います。

**④会費制について**
会費は五千円と定められています。参列者にはこの点よく理解してもらって下さい。実際に決められた額より多くならないよう気をつけて下さい。

**⑤引物について**
これは千五百円と定められています。この金額で購入して下さい。金額をオーバーしないよう、特に注意して下さい。

**⑥お膳について**
一月からは、今迄のような膳ではなくプラスチックのような膳に、食べ残したものは全部もち帰ってもらうようにしたいと思います。あとしまつが容易ですしもちかえれば家で食べられます。食べ残しを捨てるのは、実にもったいないと思います。

**⑦テーブルクロースについて**
一月から布のものを使用したいと思います。一回一回洗いますが、クリーニング代は利用者から負担していただきたいと思います。どうか今後はより一層、簡素で厳粛な結婚式につとめ、今一度公民館結婚をみなおしてほしいと思います。

# 高令者と婦人会

## 歩きながらの交流を楽しむ

焼山って遠いところだねえ

スポーツ熱が年々たかまってくるなかで、高令者と婦人会員が運動会をやろう、ということになったのですが、時期的に遅すぎたので、歩いて交流しよう、ということになりました。そこで、十月二十六日にそれ〴〵の希望者から公民館へ集ってもらい、次のコースで秋晴の一日を楽しみました。

まず、全員ゼッケンをつけ横雲橋を渡り、焼山にある文化財「蝸牛様」を見学しました。そして部落を歩きながら昭和二十年に焼山へB29が落ちた地点はあのあたりで、死んだパイロットを埋めたのはこの辺だったとか、戦時のことに話題が集中しました。

次に、船で沢海へ渡りました。船に乗るのははじめて、という高令者もいました。とにかく多くの人々の感想は「焼山がこんげに遠いところだとは思わなかった」とのこと。

沢海の大栄寺でみそ汁が用意され、持参の弁当や、おにぎりでお昼を楽しみました。

昼食後は、北方博物館と満願寺水門の機械操作や、テレビによる管理方法を見学し再び公民館まで歩いて帰って来ました。約八十名の参加があり、来年もぜひどこかえ、という声がしきりでした。

## 公民館前に駐車場が完成

このたび、プール横の公民館前に、駐車場が出来ました。まだ舗装はしてありませんが、普通車等はじゅうぶん利用できますので、健康診断、乳児検診又はいろ〳〵の会議等で公民館にこられる方は、この駐車場を利用して下さい。

今後は、公民館内の駐車はご遠慮願います。

# 子ども サロン

## 静物

（三の三　宇野　匠）

夏休み中に、よく食べたスイカ、ナシ、メロンの絵である。くだものの大きさの比率を考えたり、立体感を出すために、かげを入れたり、メロンのすじで、丸みを表現している。三年生らしい努力のあとが見られる作品ではないだろうか。

## 福祉手当を受けているみなさんへ

今回、法律の改正が行われ制度が次のように変りました昭和52年8月分から、これまでの月額五、〇〇〇円が、月額五、五〇〇円に引き上げられました。支払月がこれまで1月、5月、9月がそれぞれ一カ月早まって12月、4月、8月になりました。従って次期支払いは12月となります。前年の所得が一定額を超えるために手当の支給を受けることができない期間5月から翌年4月まででしたが、この改正により8月から翌年7月までになりました。

なお昭和51年の所得により手当の支給を停止される期間は、昭和52年5月から昭和53年7月までとなります。

不明の点は役場住民課社会係にお問い合せ下さい。

**読書感想文**　田中澄江著

# 「子にわびる母の記録」を読んで

小杉（平山）　稲村栄子

これは田中澄江さんが長男の脳腫瘍をなかなか見付けられず、丁度その発病の時期が日本の戦争と重なった為に、子供に一層の苦労をさせなければならなかったので、子供に対しての自分の至らなさをと書き出しています。恥かしくて、見っともないけれども、いかに自分が馬鹿で思い上っていて、いやな女であるかを書くことに、子供への償いの気持であると書いてあります。

私はこの本を最初見た時、「ゆえに涙の谷より」と書かれた表題に引かれて求めました。それは田中澄江さんが、子供の妊娠の時から出生に至るまでが日記によって記されてあります。その中の一節〝子供よ、あなたを生もうとして生んだのではない、もしあなたがその苦しみの根源を父や母におくならまちがっています。その時、自分より大きな力が宇宙にある事を知って下さい。私も、もし生まれなかったらと嘆いた事が幾度もあります。私は私の母にその嘆きをぶっつけました。ばかでした。私の母もやっぱり生まれる意志はないのに生れて来たのです。お母さんは毎日鏡を見ます。自分の眼が美しく澄んでいるかいないか、子供の親にふさわしい自分かどうか〟私はこの文章を巻頭に見て感動しました。それは普通の小説にない魅力として引き付けられたのです。

二十二年九月、京都大で脳下垂体に出来た脳腫瘍摘出手術をした長男が、麻酔からさめて「痛いよ、お母ちゃん。どうして僕はこんな痛いめにあうの」と問いかけた時、母としてこんなに子供に痛いめに合して、何が愛情ある母であろうと自分が生まなかったらと思うと、いたゝまれない思いはいつか我が身憎さに変ったと書かれています。そして子供が不幸な宿命を与へられて、もしそれが神の意志であったら、その者達の不幸を皆んな自分が代ってやりたい引き受けてやりたい、自分はもっと苦労し、もっと辛いめにあっても平気で乗りきり、神の意志とたゝかうことが出来るのだと、私は神の名を只不幸から助かるためには絶対に呼ぶまいと思った。

また子供を病いに苦しめて母と云う女に一生の間、どんな幸せも許されないと思うと書いています。でも私は後何年生きられるかわからない。願わくばその年月苦難に満たされてもよいと思うと、子供を重い病気にした母のその思いだけが幸福感にかわるのです。と、あとがきにありました。そして鳥取で夫の両親と暮らした戦争中の体験等、筆者の苦労が切々と感じられる本でした。この本は、何年か前のNHKテレビ「虹」の原本です。私が今でも時々読み返している好きな一冊の本です。

## 公民館結婚式についての意見をおよせ下さい

公民館では生活改善と明るい村づくりを目ざして結婚式を行っておりますが、生活様式の変化とともに、やゝもするとより一層はでになってくるような気がします。

美しい衣装を着て、たくさんのごちそうを並べて、式をあげても式そのものは変りありません。少ない経費でよい式にするために、もう一度結婚式を見直してみたいと思います。ぜひ意見をお寄せ下さい。